

Topic 1

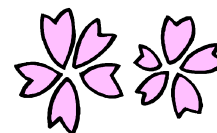
◇今春入試合格体験記 第2弾 合格者喜びの声

黒田陽平さん

■合格大学：立教大学 経済学部 会計ファイナンス学科
法政大学 社会学部 社会政策学科

■学校名：都立北園高校

■校舎名：小竹向原校



● 合格を手にしての感想

まず合格したときは喜びよりも安堵感の方が強かったです。この一年間を今振り返るととても短く感じます。特に1月に入ってセンターが終わってからの時間はあっという間でした。僕は受験で大事なのが、自分が悔いのないようにやることだと思います。全てが終わったときに何よりも自分が納得できればいいと思うし、結果もついてくると思います。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

僕が立教大学に最終的に決めたのは、キャンパスを見てからです。きれいで、そこにいる学生の人も活発で楽しそうでとても雰囲気良く、こういう所で色々なことを学びたいと思いました。実際行かないとわからない雰囲気があると思うので、キャンパスに一度は行った方が良かったです。

● 俊英館に入塾して良かったところは？

俊英館の一番いいところは、先生がフレンドリーで、いい意味でカッコリとした塾らしくないところだと思います。小学校から高校受験まで教わったどの先生の授業も楽しく、今までの「塾」のイメージとは少し違いました。そのおかげで、勉強がただつらいものだと思うことはあまりありませんでした。俊英館で今まで勉強できて良かったです。8年間ありがとうございました。

● 後輩へのアドバイス

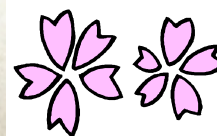
僕が大学受験を終えて思ったことは、1、2年のうちにもっと勉強すべきだったということです。僕は正直1、2年の頃はテスト前以外全然勉強してなかったため、やれることを早いうちからやっておいた方がよかったです。1日10個でも英単語を覚えたり、古文の活用形を覚えたり、そんな程度でもいいから**勉強の習慣をつけることがとても大事**だと受験が終わった後に思いました。学校の先生もよく言いますが、これは本当に重要なことです。あと、学校ではなるべく勉強のことを考えず、友達と仲良く過ごすのがオススメです。部活をやっている人は、思い切り部活に打ち込んで下さい。逆にその方がメリハリが出て勉強にも集中しやすいと思います。大学受験のアドバイスとしては、英語がとても大事なので、先ほど言った英単語だけでなく、文法書など英語だけでも早いうちからやっておくことは絶対損にはなりません。また、色々な大学の赤本を解いてみて下さい。大学によって問題は全然違うため、自分に合うものも合わないものもあります。志望校を決める上でこういったことも参考にすると良いと思います。受験はつらく厳しいものですが、親や先生など自分を支えてくれる人の存在を再確認できる機会であり、必ず自分を一回り大きくしてくれるものだと思います。

●水谷優さん

■合格大学：早稲田大学 スポーツ科学部 スポーツ科学科

■学校名：早稲田実業高校

■校舎名：立川中央校



●合格を手にしたの感想

早稲田大学付属の学校に通っていたので受験の実感があまりありませんでした。進学する学部を決めるために、学校で学力試験をしました。学力試験はとても試験範囲が広いので忘れていた所などをもう一度勉強しなおす必要があったので大変でした。

●将来の夢や目標は？

将来はトレーナーになりたいと思っています。自分自身がスポーツをしていて故障した時に、担当のトレーナーがすばやく診断してマッサージなどの治療をしてくれたところに感動したので、トレーナーになりたいと思っています。

●大学・学部を選んだきっかけは？

早稲田大学スポーツ科学部ではトレーニングをするための設備や運動のケアなどスポーツをする環境が充実していて、なおかつ実践的な授業が多く体を動かしながら学べるため、この学部に行こうと思いました。その他にも英語が苦手な第2外国語などを勉強する余裕がないと感じたのも理由の一つです。

●俊英館に入塾して良かったところは？

先生と生徒の距離が近く、とても楽しく勉強ができる所がとても良いと思います。また、授業以外の時間でも自習ができ、わからない所があれば先生に聞くことができるので自分ペースで勉強ができる所も魅力の一つだと思っています。

●後輩へのアドバイス

成績を上げるために最も必要だと思うことは「あたりまえ」のことをしっかりとすることだと思っています。「あたりまえ」のこととは「提出物をしっかりと出す」「宿題をやる」「予習、復習をしっかりとやる」などです。「あたりまえ」をしっかりとやって、友だちと仲良くしていれば、補習を受けて部活に出られなくて練習ができないなどということはなくなります。提出物をしっかりと出しておけば先生に怒られることが減ります。

1, 2年生のうちに英語の総復習と今まで習った所でわからなかった所をしっかりとできるようにすることが大事だと思います。1, 2年生のうちにこれらのことをしっかりとしておけば3年生になってからもう一度1, 2年生で習ったことを復習するときに苦労せずすむと思います。頑張ることは大切ですが、無理し過ぎないように体調管理に気をつけてください。

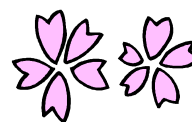


●水野侑さん

■合格大学：青山学院大学 経済学部 現代経済デザイン学科

■学校名：埼玉県立所沢高校

■校舎名：入間中央校



●合格を手にしたの感想

もともとは指定校推薦で大学に入るつもりでしたが、考えていた大学が推薦枠からなくなってしまい、他にも候補はありましたが不本意だったので、受験することに決めました。やる気に満ちている時があれば、もう勉強したくないというような苦しい時期も多々ありましたが、学べた事も多く、自分なりの努力というものが「合格」という形で返ってきた時は、受験して本当に良かったと思いました。

●大学・学部を選んだきっかけは？

僕は志望校を決めるうえで、自分の興味のあること、その大学への交通アクセス、雰囲気等重点をおいて青山学院大学を第1志望に決めました。元々は英語を専門的に学びたいと思っていましたが、就職などを考えた上で、幅広い分野で活用できる経済学を学び、かつ英語にも力を入れているという青山学院大学経済学部の特徴が決め手でした。

●俊英館に入塾して良かったところは？

先生方がよく気にかけてくれ、アドバイスや勉強の管理などをしてくれたこと。

●後輩へのアドバイス

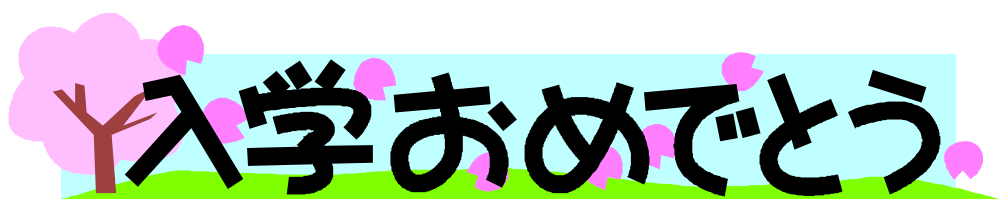
僕は高2の3月までバイトをやり、7月中旬までは週2でフットサルをやっていました。以前から英単語などは少しずつやっていましたが、本格的に受験勉強を始めたのは高3の4月でした。

受験を終えて思ったこととして、1つめは受験勉強を早く始めて、1、2年のうちに土台となる部分を固めておくだけでも、合格できる大学の幅は広がってくる。2つめは、基礎を大事にし、下から上へと積み上げる勉強をすることです。英語で言えば、単熟語と文法→精読→速読というような感じです。僕自身途中で「あれもこれもやった方がいいんじゃないか？」とかいろいろ悩んだりしましたが、今やっていることを1つずつ完璧にしていっていったことが合格へとつながったと思います。

他には、これは今月の○日までに覚えるといった計画を立てたり、1時間英語やって2時間国語をやるとか、飽きないように工夫したりと、自分なりに色々変えてみるのも効果的だったと思います。

あとは復習をこまめにやるとか、やる気がなくなったら行きたい大学を調べてやる気を起こしたり、時には思いきって休みをとることも必要です。

合格するのに1番肝心だと思うのは、自分のやる気です。どんなに講師がすごい人でも、どんなに良い参考書でも、それを自分の学力に変えるには、やる気がないと意味ないです。でも言いかえれば、自分のやる気と努力次第で結果は変わります。受験は大変ですが、合格した時にはそれが全て良いものだったと思えると思います。この文で少しでもやる気が出たと思ってもらえたら幸いです。

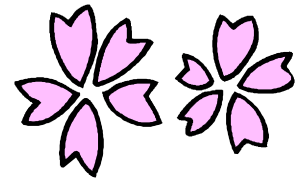
入学おめでとう

● 上松祐貴さん

■合格大学：日本大学 文理学部 史学科

■学校名：千葉県立千葉南高校

■校舎名：市原辰巳台校



● 合格を手にしたの感想

一般入試が終わり、合格発表を待っている時はとても不安でした。合格通知が来た時は嬉しさと同時に受験からの解放感がありました。高校3年になった時はいよいよ受験だと思っていましたが、今思うとあっという間でした。クラスの友人とは勉強方法について意見交換したり、わからない所を教え合ったり、お互いに助け合いました。心の支えになっていたと思っています。

● 将来の夢や目標は？

将来の夢というものは中学生の頃から聞かれる時がありましたが、まだわかりません。ただ将来やりたいということはあります。それは世界旅行です。高校で世界史を勉強して、世界遺産や世界各地に興味を持ち、実際に足を運んで目で見てみたいと思ったからです。そのためには世界の人と話せなければならないので、英語やフランス語などの勉強を頑張ろうと思っています。また旅行はお金がかかるものなので、今のうちから自分にあった職業探しをしてなるべく早いスタートを心掛けています。悔いのない人生を送ろうと思っています。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

進学先である史学科を選んだ理由は、僕は中学生の時から歴史が好きで、高校で世界史を勉強した時にとっても興味深い内容で、大学でより詳しく研究したいと思ったからです。また大学には大きな図書館があり、オープンキャンパスで実際に入った時に、とても雰囲気がある所で世界史についての本もたくさん置いていたので、世界史の研究に没頭できる場所だと思いました。大学へは家から通学するので大変だとは思いますが、大学での4年間で充実した生活になればと思っています。また僕は大学を決めるのが遅く、高校3年の秋になりましたが、大学選びは後悔していません。

● 俊英館に入塾して良かったところは？

俊英館には中学1年の時から通っていましたが、勉強道場はとても集中して勉強できたと思っています。家では勉強できない自分にとって勉強道場はとても良い環境でした。また授業や休み時間などわからないことや疑問に思ったことは俊英館の先生方が丁寧に教えてくれました。俊英館に通ううちに自然と努力することが身についたと思います。高校受験・大学受験など心配を掛けることはたくさんあったと思いますが、6年間ご指導ありがとうございました。

● 後輩へのアドバイス

まず言えるのは早いスタートを心掛けるべきだということです。僕は大学を決めるのが高校3年の秋になってしまい、自然と受験勉強を始めるのが遅くなってしまい、とても後悔しています。大学を決めるのは難しいと思いますが、遅くても高校2年までには受験勉強を始められれば間に合うと思います。また受験勉強には「日々の積み重ね」が大事だと思っています。予習・復習の繰り返しでも効果はあると思います。さらに教科書を読むとより良いと思います。ただずっと勉強するのは酷なことなので、学校生活では部活動に励み、友人と充実した時間を過ごした方が良いと思います。そして楽しい学校生活を送れば良いと思います。また当たり前前のことですが、いくら受験勉強を頑張っても試験当日に体調を崩しては本末転倒なので、体調管理には十分気をつけた方が良いと思います。

◇新高1生必読！ 大学受験の計は高1にあり

4月になり新学期が始まります。皆さんフレッシュな気持ちで新しい学年をスタートさせることと思います。この時期に（特に高1の皆さんから）よく質問されることに「学校の予習の仕方は？」というものがあります。学校によって、教科担当の先生によって、指示内容がまちまちであったり、指導に熱心な先生が自らの担当教科の勉強を強く勧めるなど、悩ましい問題も潜んでいます。

すべての科目の予習も復習も行うことが理想ですが、現実的には難しいでしょう。全教科について、予習も復習もしなくてはいけないとあせらなくても大丈夫！効率よく、全体的な成績を上げるためには、**教科・科目の特性をとらえて、予習・復習の重点を変える**ことが得策です。

◇定期テスト前の勉強だけで良い科目 = 社会(現代社会・地理など), 現代文

知識を詰め込むタイプの科目は、予習は要りません。定期テスト前に集中して暗記を行いましょう。課題プリントがある場合は、それだけはしっかり行いましょう。定期テスト前だけだと暗記が追いつかないという不安がある人は「授業前の休み時間に前回の授業内容を、ノートを見ながら思い出して暗記する」のが良いでしょう。これらの科目は、授業ノートのとり方がポイントです。定期テスト前に復習しやすいノートになるよう、工夫してまとめましょう（東大に合格する生徒のノートは美しいそうです）。

◇復習中心の勉強で良い科目 = 数学, 理科(物理・化学)

問題を解くことが中心の科目は、復習中心で大丈夫です。授業で理解したことを問題演習に活かして「実際に問題が解けるかどうか？」がポイントになります。授業を受けた後に、学校の問題集をどんどん解きましょう。問題を解いた分だけ、成績が上がると考えてください。予習しないで授業に臨むと全く理解できないという科目であれば予習もしましょう。予習で大事なものは公式の「暗記」ではなく、公式の「理解」です。この公式はどういうことを意味しているのか、どのようにその公式が導かれるのかを「考えること」が予習です。

数学は問題を解くことが中心の科目なので、その意味では復習中心でよいのですが、現実的には「予習せずに授業に臨むと全く理解できない」可能性が大きいので、予習中心の勉強をすることをお勧めします。

◇絶対予習が必要な科目 = 英語(文法・読解), 古文, 漢文

辞書を使用する科目は絶対予習が必要です。もしこれらの科目を予習しないで授業に臨んだら、予習をしたときに得られる理解度・知識の定着度で雲泥の差がつきます。予習を欠かさず行いましょう（ただし、私立理系の一般受験しか考えていないという人は、古文・漢文の予習はしなくても良いでしょう）。予習ノートは授業で書き込むことを前提にスペースを多めにとってください。また、予習ノートに単語・熟語の暗記スペースを作るとテスト勉強のときに役立ちます。

【例】英文読解の予習ノートであれば、左ページの左端に分からない単語を書くスペースをとり、右ページの右端にその単語の意味を書くスペースをとると「単語帳」のできあがりです。

中学時代に優秀だった生徒が大学受験に失敗するケースのほとんどが、高1時代の「英文法」をおろそかにした人です。**高3になったときに英語が苦手**の人は、その克服に莫大な時間が費やさなければなりません。逆に、高1で「英文法」をきちんとマスターしておくと、高2、高3と本当に楽ができますよ。

◇栄冠を勝ち取れ！ センター試験を知って、優位に立つ

大学受験をするほとんどすべての人が受験する「大学入試センター試験」は、受験対策の要です。「センターで失敗すると、第一志望の合格は無理！」とまで言われています。まずは、入試を有利に戦うために、センター試験の基本知識をおさえておきましょう。

今回は、来春の2015年度のセンター試験からの変更点を踏まえた**センター対策のポイント**を伝授します。

1 国公立大学受験生＝文系は8科目、理系は7科目が基本

大きく変更があるのは理科です。文系は「○○基礎」を2科目受験、理系は「基礎」のつかない「物理・化学・生物・地学」から2科目を受験します。

社会では、文系は2科目、理系は1科目の受験が基本になり、文系・理系で科目数が異なります。

※ 今春の2014年度受験の人と比べて、理科は2倍の学習量になります。したがって、2015年度センター試験では、理科の得点差が大きくなるはずですが、**理科を得点源にすることで、センター試験で他の受験生に差をつけ、より優位に立つことができます。**

2 センター試験の出題範囲は高2内容までだから、問題は易しい？

答えはNO！センター試験の平均点は100点満点換算すると、60点前後です。受験生の半分くらいの人が60点以上取ると考えられます。しかし、「普通にやっていたら60点取れる試験なら、センター試験は簡単だ」と思うのは間違いです。「**必死に努力しても、半分くらいの人には60点しか取れない難しい試験**」というのが正しい考え方です。しかも、60点しか得点できなければ、ほとんどの国公立大学に不合格です。

※ 国公立大学の合格者の得点率は75%以上、難関国立大の場合は85%以上です。

3 センター試験対策の秘訣とは？

センター試験で高得点をとるためには、「問題形式に慣れ、スピーディーかつ正確に問題を解くこと」が求められます。具体的には、①センター試験の過去問に触れ、難易度を肌で感じること ②普段の勉強（学校の予習・復習、定期テスト対策、塾の授業など）で、「いま学んでいるこの知識・問題がセンターに出題されたら、自分は得点できるのか？（得点できるような勉強ができているのか？）」と自問しながら勉強を進めることが大切です。常にセンター試験を意識して勉強を継続することで、高3で本格的なセンター対策（過去問の演習）を行ったときに飛躍的な伸びと成果を出すことができるのです。「センター対策に王道なし！」とよく言われますが、センター試験対策に特別な方法があるのではなく、**普段の勉強の質を上げる**ことが一番重要であることを意味しているのです。

※さらに詳しい内容は、市進 HP「2015年 センター試験が大きく変わる。」

（下記アドレス）が参考になります。ぜひアクセスしてみてください。

URL : <http://www.ichishinwingnet.co.jp/center/>

